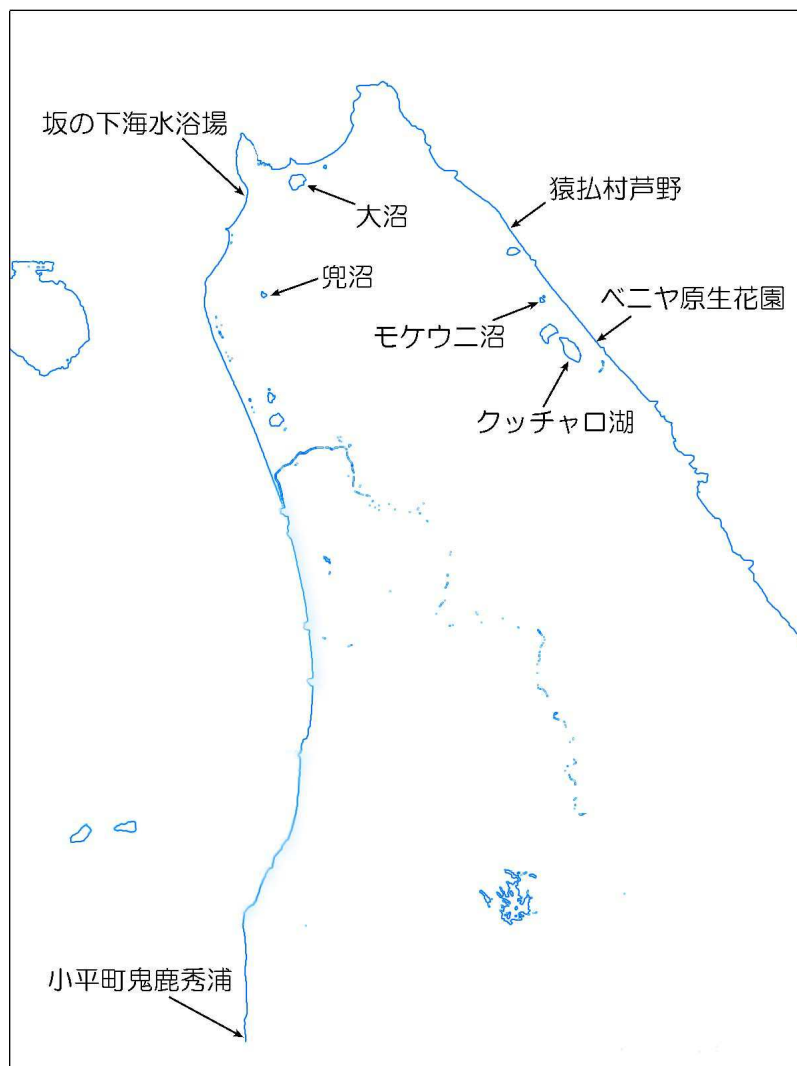


レポート :

2018年6月道北地域で見た野鳥



衣笠 誠一郎

目 次

1. はじめに.....	3
2. 各地で見られた野鳥.....	4
2.1. 札幌から留萌.....	4
2.2. 留萌から天塩.....	4
2.3. 天塩から稚内.....	4
2.4. 稚内市大沼.....	5
2.5. オホーツク海岸.....	5
2.6. 猿払村モケウニ沼.....	6
2.7. クッチャロ湖.....	6
2.8. 浜頓別町ベニヤ原生花園.....	7
2.8.1. ヒバリ.....	7
2.8.2. ベニマシコ.....	7
2.8.3. カルガモ.....	8
2.8.4. ノゴマ.....	8
2.8.5. コヨシキリ.....	9
2.8.6. ノビタキ.....	9
2.8.7. オオセグロカモメ.....	10
2.8.8. カッコウ.....	10
3. カモ類.....	11
3.1. カモ類の分類.....	11
3.2. マガモ.....	13
3.3. カルガモ.....	13
3.4. コガモ.....	13
3.5. ヨシガモ.....	13
3.6. ヒドリガモ.....	13
3.7. オナガガモ.....	13
3.8. ハシビロガモ.....	13
3.9. ホシハジロ.....	13
3.10. キンクロハジロ.....	13
3.11. スズガモ.....	14
3.12. ミコアイサ.....	14
4. 北海道で夏鳥とされるカモ類.....	14
5. おわりに.....	15
6. 参考資料.....	15

1. はじめに

2018年6月6日、7日の二日間、日本最北の地の水鳥を見ようと小旅行をした。札幌より石狩湾岸の国道231号線、留萌より国道232号を北上し、宗谷岬をまわりオホーツク海岸を南下、浜頓別まで。

冬鳥であるカモ類は北への渡りの時期はすでに過ぎているが、日本最北の地なので、渡る直前、または北海道で繁殖の、カモ類が少しでも見られないかとの思いがあった。

2. 各地で見られた野鳥

2.1. 札幌から留萌

国道 231 号線の石狩市から浜益、増毛を通り、留萌までの間は、漁港付近にウミネコが数羽見られたのみであった。

2.2. 留萌から天塩

小平町鬼鹿秀浦の、沖に連なる岩にウミウ（カワウ？）とアオサギがとまっているのが見られた。



ウミウとアオサギ（撮影場所：小平町鬼鹿秀浦）

2.3. 天塩から稚内

天塩市街から北に広がるサロベツ原野にはいくつかの沼があるが、そのうちの一つ兜沼を訪れたが、水鳥は見られなかった。幌延ビジターセンターとサロベツ湿原センターがあるが、いずれも沼から離れた位置にあるので、今回は立ち寄らず。



着水するオオセグロカモメと水浴びするウミネコ（撮影場所：坂の下海水浴場付近）

稚内市坂の下海水浴場付近の後背湿地に水溜りがあり、ウミネコの群れが見られた。ウミネコのなかに数羽のオオセグロカモメが混じっていた。ウミネコは本州以南で一年中見られ、北海道では夏鳥。オオ

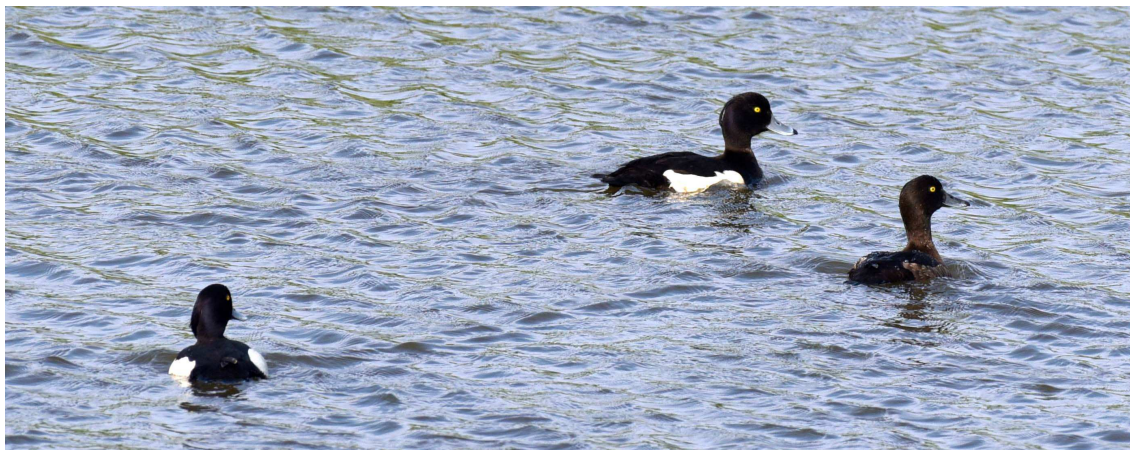
セグロカモメは東北以北で一年中見られる留鳥、東北より南では冬鳥。

2.4. 稚内市大沼

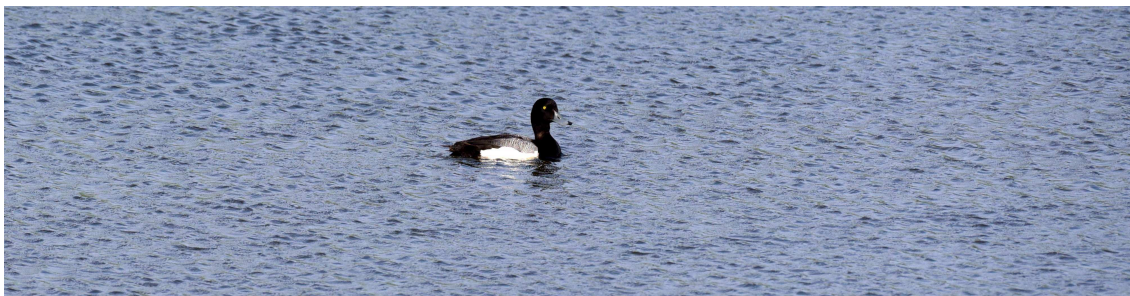
稚内市街の東に大沼があり、大沼バードハウスより大沼を眺めたが、水鳥は一羽も見られなかった。

2.5. オホーツク海岸

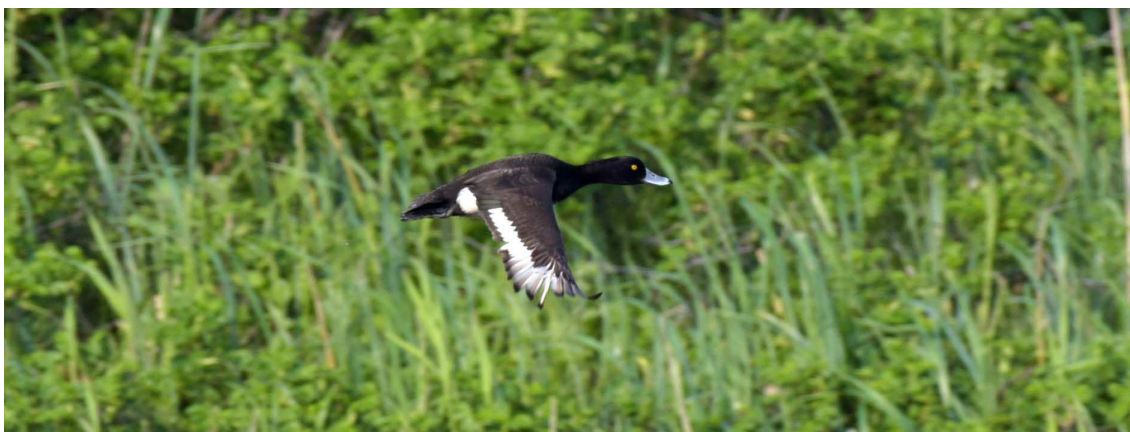
宗谷岬よりオホーツク海岸に沿って南下し、東浦漁港を過ぎて猿払村芦野付近、上苗太路川の河口につながる後背湿地の水溜りに、キンクロハジロとスズガモ、アオサギが見られた。



キンクロハジロ（撮影場所：猿払村芦野）



スズガモ（撮影場所：猿払村芦野）



キンクロハジロ（撮影場所：猿払村芦野）

2.6. 猿払村モケウニ沼

沼の南東側の道路終点に駐車スペースがあり、台地の急崖に設置された階段を十数メートル下りると、350mほどの長さの木道が沼まで続いている。木道沿いの湿地にはミズバショウが多くあり、時期が早いので、花はこれからという状態であった。沼近くにはワタスゲの白い花が咲き乱れていた。沼に水鳥は一羽も見られなかった。



モケウニ沼の木道

2.7. クッチャロ湖

クッチャロ湖は日本最北端のラムサール条約登録湿地であり、白鳥の湖として有名である。浜頓別市街に近い湖岸に白鳥の舎があり（写真）、湖を見渡せる。湖にカワウとマガモ数羽を確認したが、すぐに飛び去ったため撮影できず。



クッチャロ湖と白鳥の舎

2.8. 浜頓別町ベニヤ原生花園

浜頓別市街の東、オホーツク海岸沿いにベニヤ原生花園があり、ヒバリ、ベニマシコ、ノゴマ、ノビタキ、コヨシキリ、カッコウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、カルガモ、アオサギなどが見られた。

2.8.1. ヒバリ

ヒバリはスズメ目ヒバリ科、九州以北にすみ、北海道では夏鳥（参考文献 4、p518）。稚内市大沼では夏鳥、3～10月に見られる。クッチャロ湖の鳥類カレンダーには記載なし。



ヒバリ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.2. ベニマシコ

ベニマシコはスズメ目アトリ科、夏鳥として北海道で繁殖し、秋冬は東北地方へ移動する（参考文献 4、p676）。稚内市大沼では夏鳥、5～9月に見られる。クッチャロ湖では5～10月。



ベニマシコ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.3. カルガモ

カルガモは留鳥として全国に分布し、北海道では大部分が夏鳥（参考文献 4、p53）。稚内市大沼では夏鳥、4～10月に見られる。クッチャロ湖の鳥類カレンダーには記載なし。



カルガモ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.4. ノゴマ

ノゴマは夏鳥として北海道で繁殖し、渡りの時期に本州を通過し、東南アジアで越冬する。一部は南西諸島で越冬する（参考文献 4、p674）。稚内市大沼では夏鳥、5～7月に見られる。



ノゴマ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.5. コヨシキリ

コヨシキリは夏鳥として九州以北の高原などに渡来し、東南アジアで越冬する（参考文献 4、p568）。稚内市大沼では夏鳥、6～9月に見られる。クッチャロ湖では5～10月。



コヨシキリ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.6. ノビタキ

ノビタキは夏鳥として北海道から本州中部の、平地から山地にかけて生息し、東南アジア～インドで越冬する（参考文献 4、p625）。稚内市大沼では夏鳥、4～10月に見られる。クッチャロ湖では5～10月。



ノビタキ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.7. オオセグロカモメ

オオセグロカモメは東北以北で一年中見られる留鳥、稚内市大沼では、1月、3～6月、10～11月に見られる。クッチャロ湖では一年中見られる。



オオセグロカモメ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

2.8.8. カッコウ

カッコウは夏鳥として九州以北の平地から山地の、開けた環境を好み渡来する。東南アジア～インドで越冬する（参考文献 4、p213）。稚内市大沼では夏鳥、6～7月に見られる。クッチャロ湖の鳥類カレンダーには記載なし。



カッコウ（撮影場所：ベニヤ原生花園）

3. カモ類

3.1. カモ類の分類

稚内市大沼バードハウス内に掲示されている「大沼の鳥たち 飛来カレンダー」と、クッチャロ湖 NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズの「浜頓別町で観察される鳥類カレンダー」、「東播磨地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳」をもとに、カモ類の分類を表にまとめた。

浜頓別町で観察される鳥類カレンダー

種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	観察場所
アカゲラ	←											→	●●
コゲラ	←											→	●●
シジュウカラ	←											→	●●
ハシブトガラ	←											→	●●
ヒガラ	←											→	●●
ゴジュウカラ	←											→	●●
シマエナガ	←											→	●●
ウミネコ	←											→	●●
カモメ	←				→				←			→	●●
ユリカモメ					→				←			→	●●
シロカモメ										←		→	●●
オオセグロカモメ	←											→	●●
コハクチョウ	←									←		→	●●
アメリカコハクチョウ	←									←		→	●●
オオハクチョウ	←									←		→	●●
コブハクチョウ	←									←		→	●●
オナガガモ	←									←		→	●●
ハシビロガモ				←	→					←		→	●●
マガモ	←											→	●●
ミコアイサ			←	→						←		→	●●
キンクロハジロ				←	→					←		→	●●
コガモ				←	→							→	●●
トモエガモ			←	→								→	●●
マガン				←	→							→	●●
ヨシガモ			←	→								→	●●
スズガモ				←	→					←		→	●●
オカヨシガモ										←		→	●●
アメリカヒドリ											←	→	●●
ヒドリガモ				←	→					←		→	●●
ホオヅロガモ				←	→					←		→	●●
カワウ				←	→					←		→	●●
アオサギ				←	→					←		→	●●
ダイサギ				←	→					←		→	●●
ツグミ	←				→					←		→	●●
イスカ				←	→							→	●●
キレンジャク				←	→							→	●●
ウグイス				←	→							→	●●
キアシシギ					←	→				←		→	●●
イソシギ					←	→				←		→	●●
アカエリヒレアシシギ										←		→	●●
トウネン					←	→				←		→	●●
アカハラ					←	→				←		→	●●
ツツドリ					←	→				←		→	●●
オオジシギ					←	→				←		→	●●
キジバト					←	→				←		→	●●
ハクセキレイ					←	→				←		→	●●
ツメナガセキレイ					←	→				←		→	●●
ベニマシコ					←	→				←		→	●●
コムクドリ					←	→				←		→	●●
ニューナイスズメ					←	→				←		→	●●
モズ					←	→				←		→	●●
ビンズイ					←	→				←		→	●●
コヨシキリ					←	→				←		→	●●
ノビタキ					←	→				←		→	●●
オオジュリン					←	→				←		→	●●
アオジ					←	→				←		→	●●
カワラヒワ					←	→				←		→	●●
ノゴマ					←	→				←		→	●●
アオバト					←	→				←		→	●●
カワセミ					←	→				←		→	●●
ミサゴ					←	→				←		→	●●
チュウーヒ					←	→				←		→	●●
トビ					←	→				←		→	●●
オジロワシ	←											→	●●
オオワシ	←											→	●●

注意：写真撮影した代表的な鳥類についてのみカレンダーを作成しました。
 凡例：観察場所 クッチャロ湖 ●、ベニヤ原生花園 ●

(NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズ内部資料)

科名	種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	摘要
サギ	アオサギ													夏 水
ガンカモ	オオハクチョウ													旅 水
	コハクチョウ													旅 水
	マガモ													旅 夏 水
	カルガモ													旅 夏 水
	コガモ													旅 夏 水
	ヨシガモ													旅 水
	ヒドリガモ													旅 水
	オナガガモ													旅 水
	シマアジ													旅 水
	ハシビロガモ													旅 水
	ホシハジロ													旅 水
	キンクロハジロ													旅 水
	スズガモ													旅 水
	ホオシロガモ													旅 水
	ミコアイサ													旅 水
カワアイサ													旅 水	

大沼バードハウス 大沼の鳥たち 飛来カレンダー（ガンカモ類の部分）

表 カモ類の分類

	稚内市大沼	クッチャロ湖	東播磨
マガモ	旅鳥・夏鳥	旅鳥・夏鳥	冬鳥
カルガモ	旅鳥・夏鳥	—	留鳥
コガモ	旅鳥・夏鳥	旅鳥	冬鳥
ヨシガモ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
ヒドリガモ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
オナガガモ	旅鳥	冬鳥	冬鳥
ハシビロガモ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
ホシハジロ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
キンクロハジロ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
スズガモ	旅鳥	旅鳥	冬鳥
ミコアイサ	旅鳥	旅鳥	冬鳥

注) クッチャロ湖の分類は、浜頓別町で観察される鳥類カレンダーをもとに推定した。

東播磨地域は、東播磨地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳による。

稚内市大沼ではカモ類はすべて旅鳥であり、そのうちマガモ、カルガモ、コガモは、夏鳥としても分類されている。東播磨では、カルガモを除くカモ類はすべて冬鳥であるが、道北地域では旅鳥または夏季に繁殖する夏鳥と分類されている。

3.2. マガモ

マガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖すると考えられているが、稚内市大沼では旅鳥・夏鳥と分類されている。本州で少数が繁殖するといわれており、北海道では留鳥として分類される場合もある（参考文献 4、p54）。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p21）。

3.3. カルガモ

カルガモは本州では留鳥とされているが、夏に道北地域へ移動する個体があり、道北地域では夏鳥として分類される。東播磨では留鳥に分類される（参考文献 3、p22）。

3.4. コガモ

コガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、稚内市大沼では旅鳥・夏鳥と分類されている。少数が中部地方の高地や北海道で繁殖するといわれており（参考文献 4、p60）、これらが道北地域で夏鳥として分類されているのかもしれない。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p22）。

3.5. ヨシガモ

ヨシガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸東部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。北海道で少数が繁殖する例があるようである（参考文献 4、p49）。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p23）。

3.6. ヒドリガモ

ヒドリガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、稚内市大沼では旅鳥・夏鳥と分類されている。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p24）。

3.7. オナガガモ

オナガガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p25）。

3.8. ハシビロガモ

ハシビロガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。北海道で少数が繁殖する例があるようである（参考文献 4、p55）。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p26）。

3.9. ホシハジロ

ホシハジロは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。北海道東部で繁殖例があるようである（参考文献 4、p64）。東播磨では冬鳥に分類される（参考文献 3、p26）。

3.10. キンクロハジロ

キンクロハジロは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。北海道で少数が繁殖する例があるようであり

(参考文献 4、p69)、マガモやコガモと同じように、北海道で夏鳥として分類される例があるのかもしれない。東播磨では冬鳥に分類される(参考文献 3、p27)。

猿払村芦野付近で見かけたキンクロハジロとスズガモは、ユーラシア大陸へ渡るのか、北海道にとどまるのかを、追跡したいものである。

3.11. スズガモ

スズガモは冬鳥として全国に渡来し、夏季はユーラシア大陸北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。東播磨では冬鳥に分類される(参考文献 3、p27)。

3.12. ミコアイサ

ミコアイサは冬鳥として九州以北に渡来し、夏季はユーラシア大陸中～北部で繁殖するといわれているが、大沼とクッチャロ湖の両方で旅鳥として分類される。北海道で少数が繁殖する例があるようである(参考文献 4、p82)。東播磨では冬鳥に分類される(参考文献 3、p28)。

4. 北海道で夏鳥とされるカモ類

稚内市大沼では、カモ類のほとんどは旅鳥であり、夏の繁殖期を過ごすユーラシア大陸への渡りの途中に北海道に短期間滞在するようである。カモ類の内マガモ、カルガモ、コガモは、夏鳥としても分類されている。マガモやコガモは、本州以南に冬鳥として飛来し、夏季はユーラシア大陸に渡り繁殖すると考えられているが、少数はユーラシア大陸まで渡らず、夏季北海道にとどまり繁殖する例があるようである。

カルガモは本州以南で留鳥であり、その一部が北海道へ移動し、夏鳥となっているようである。

このほか、ヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサなどは、北海道で少数の繁殖例があるようであり、これらも夏鳥と分類されると思われる。

5. おわりに

カモ類の渡り時期が過ぎているが、猿払村芦野付近で上苗太路川の河口につながる後背湿地の水溜りで、キンクロハジロとスズガモを見ることができた。これからユーラシア大陸へ渡るのか、北海道にとどまり繁殖するのか、個体の移動を追跡する手段があればと思うが、将来への課題である。

兜沼、稚内大沼、浜頓別のクッチャロ湖などで、道北地域の湖沼におけるカモ類に関する情報を得ることができた。また、クッチャロ湖の白鳥の舎で、NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズのスタッフの方々とお会いできた。今後も情報交換ができればと願うものである。

6. 参考資料

1. 稚内市大沼バードハウス、大沼の鳥たち飛来カレンダー（室内展示資料）
2. 浜頓別町で観察される鳥類カレンダー、NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズ内部資料
3. 東播磨地域のため池とその周辺の野鳥観察手帳、兵庫県東播磨県民局・いなみ野ため池ミュージアム運営協議会平成（29年3月）
4. 決定版日本の野鳥 650、真木広造・大西敬一・五百澤日丸著、平凡社
5. 野鳥観察ハンディ図鑑新・水辺の鳥改訂版、日本野鳥の会
6. 野鳥観察ハンディ図鑑新・山野の鳥改訂版、日本野鳥の会